

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 教授

御名前 平田 晃久 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- テクノロジーが生命に近づきつつある時代にふさわしく、人間が住む環境全体が「生きている」事を示すこと。
- 水、風、光、熱などさまざまな「流れ」の複雑な振る舞いをシミュレートできる技術をフィードバックした、新しい都市の姿を（断片的にであれ）提示すること。
- 上記の「流れ」には人間の流れも含まれるが、新しいモビリティの技術を生かしたフレキシブルな交通システムのイメージを提示すること。
- 会場全体を1つの生態系として捉え、都市での農業や新しい緑化、離散的な発電システムの可能性を示すこと。
- それぞれがバラバラの個性を持つパビリオン（エキスポが終わると廃棄物となる）に依存した、従来のエキスポのイメージを脱却すること。
- 他方で、つくること＝悪という紋切り型の考え方を超えて、引き継いでいける印象的な構築物（恐らくは何らかの新しいインフラストラクチャー）をできる限り大胆につくること。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 最新のテクノロジーを駆使して、文字通り五感を駆使して体験できる展示
- 最新の翻訳ツールなどを生かした異言語間でのコミュニケーションが簡単にできる環境の提示
- ライフサイエンスの世界の研究がどのように今後の生活像を変えるか、を提示する展示
- 水都大阪のはじまりに遡る、百舌鳥古墳群の壮大な展開を紹介する展示

## 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 膨大な廃棄物が出ることには反対ですが、会場は印象的なイメージを持つべきだと思います。
- 新しいモビリティとインテグレートされた道のようなインフラストラクチャーを、会場の風景をつくりだす要素として生かせると思います。
- それは従来のような二次元的な道ではなく、三次元的なネットワークとなるべきだと思います。
- それは万博後にこの土地に展開する都市の基盤となり、そこから新しい街が生まれるきっかけをつくるものとなります。

**4. そのほか、御自由に御意見を申し上げます。**

- 日本には優れたアイデアや実現力を持った建築家がたくさんおり、世界からも注目されています。特に、これからの建築を担う若い世代が、何らかの活躍の場を得るようなエキスポであってほしいと思います。

以上